

わがまち再発見!!

対馬市教育委員会 文化財課

☎0920(54)2341

対馬各地の地名 (大字編)

【美津島町大船越】

由来は、字のとおり船で越した場所という意味です。昭和以降、急速に自動車が普及するまで、島内移動の主力は「船」でした。

現在の大船越地区は「地峡」と呼ばれる浅茅湾と対馬海峡に挟まれた細い土地で、古来ここで船を一旦陸に揚げて丘を越した後、再び船で移動していましたが、江戸時代に三代藩主宗義真により丘が開削されたため、船を陸揚げすることなく通航することができるようになりました。

【美津島町緒方】

『津島紀事』では、地名の由来は「小瀉の意味で、干瀉に土砂が積もって宅地となり、畑となったのがその由来である」と伝えています。古文書などでは「大方」や「尾方」と記したのもありますが「緒方」と表記するようになった由来について

いては、よく分かっています。

【美津島町久須保・女護島】

由来については『津島紀事』によると二説あります。一つは「久須保」は「旧洲浦」のことで、その字から旧い洲の上に形成された集落という地形が語源となったという説です。

もう一つは、集落の土着神の「前の原」に住居が寄り集まって集落が形成されている様子を指し、寄り集まるという意味の古い言葉「久頭」が語源となっているという説です。

この久須保の対岸にある女護島は、元久須保領でしたが、明治時代に万関を開削する際に、発生した土砂を使つて埋め立てられて出来た土地で、海藻や鯛、稲などの干し場として利用されていきました。「藻干場」もほしば、めほしば)が転じて「めごしま」と呼ばれるようになったと思われすが「女護島」の字の由来ははっきりしていません。

【美津島町犬吠】

『津島紀事』では「伝えるところによると」という書き出しで「東目(東海岸に面した)かすかな場所、山の上及び航路からも見えずに、たまたま犬が吠えた声が聞こえて人家がある事に気付いたため『犬吠』と呼ぶようになった」とあります。

『美津島町誌』では、全国で「犬」が付く地名は、動物の犬に由来するものは少なく「小さい・狭い・低い」といった地形を指して使われることが多いことを指して、地形が語源となったのではないかと指摘しています。



姫神山砲台跡(緒方)

つしま図書館情報

つしま図書館 ☎0920(52)3900

●利用者の皆様へのお願い

このたびの蔵書点検において、たくさんの本が所在不明となっていることがわかりました。もしご家庭で見つかった場合は、図書館にお返しく下さい。

●雑誌のリサイクルについて

3月中旬より、古くなった雑誌の提供を行います。ご入り用の方はつしま図書館までお越しください。

4月の休館日

■休館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

今月のおすすめ新着本

『滅びの鐘』

乾石 智子/著

魔法の才をもつ土着民と、征服民がなんとか平和に暮らしてきた北国カーランドニア。だが、現王のカーランド人虐殺により、大魔法使いが平和の象徴であった鐘を打ち砕き、そして闇の歌い手と魔物をも解放してしまった。

『10秒でホンネがまるわかり ブラック心理テスト』

中嶋 真澄/著

丸ごと自分がわかる心理テスト&性格診断の本。テーマごとの簡単な質問に答えるだけで、心の奥底にある自分自身の本当の姿が浮かび上がる。

『掃除・片づけ・捨てる新技術』

マキノ出版ムック/編

モノを必要最小限に減らして、スッキリと暮らす人たち「ミニマリスト」にならない、本当に自分に必要なモノを見直すことで、よりよい生き方や、快適な暮らしを手に入れましょう!

『ぼくはいつたいなんやねん』

岡田 よしたか/著

銀色で細長く、片一方はスプーンのように、もう一方は二股に分かれている「ぼく」は、自分が誰だかわかりません。「ぼく」は、自分が何者なのかを知るために、旅に出ることにしました。

『ジオパークへ行こう!』

林 信太郎/著

火山や化石をじかに見て、生きている地球を感じよう!全国のジオパークの中から、小・中学生向けの見どころを選んで楽しくガイド。おいしい実験も、もちろん収録!

『ショコラとコロシ』

おかしの家のいたずらクッキー

ふくざわ ゆみこ/著

ことりの一家から「パーティー用のおかしを作ってほしい」と、たのまれたショコラたち。ところが、みんなで作ったクッキーが半分きえてしまっ...!? 森のパーティーはいつたいどうなるのでしょうか?